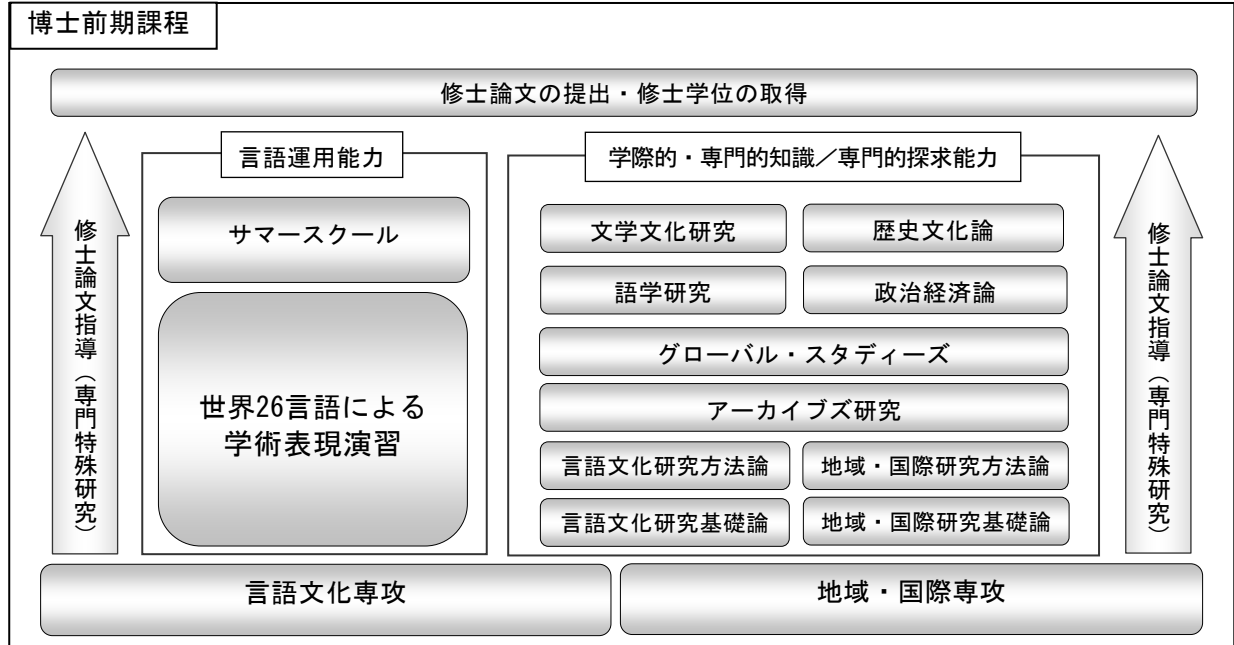
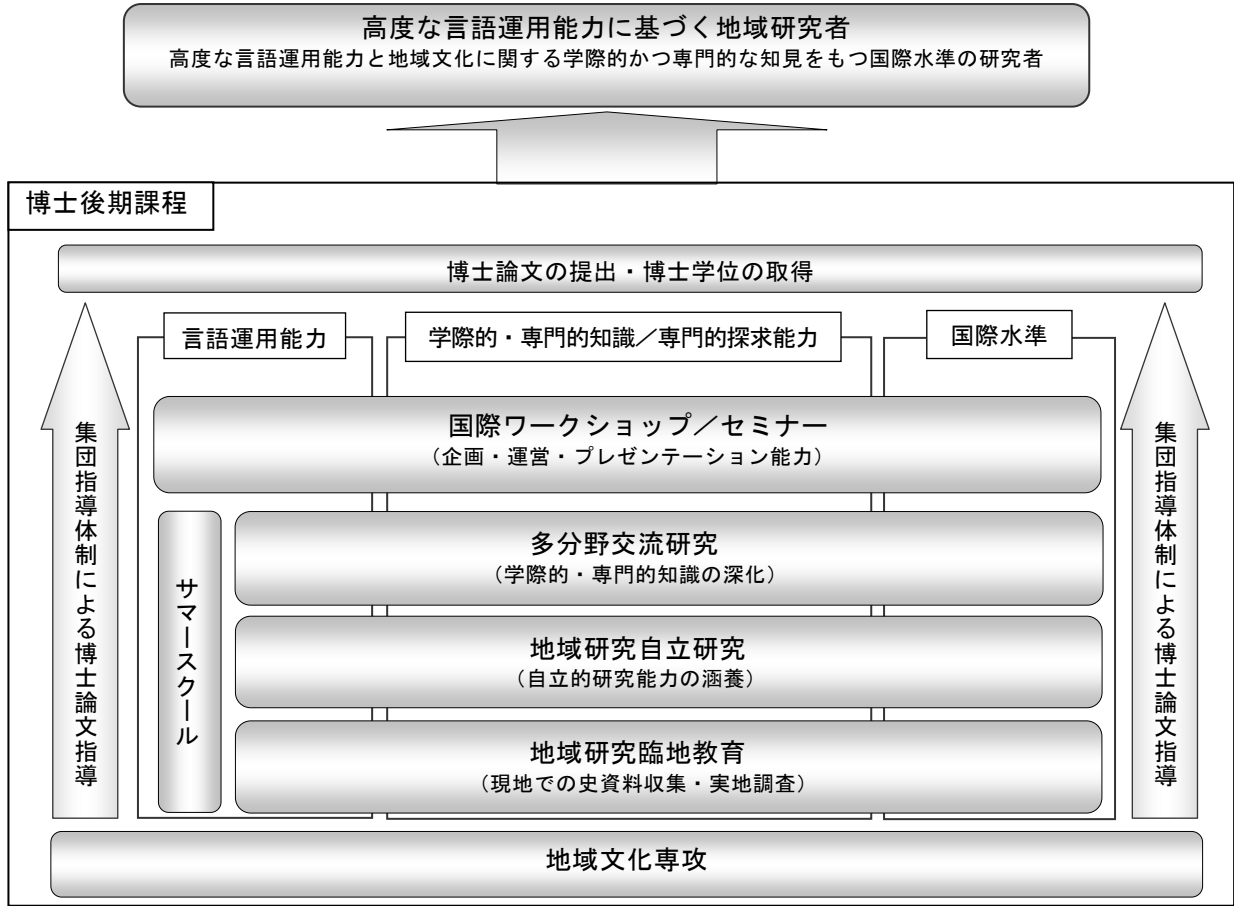


教育プログラムの概要及び採択理由

機 関 名	東京外国語大学	申請分野(系)	人社系
教育プログラムの名称	高度な言語運用能力に基づく地域研究者養成		
主たる研究科・専攻名	地域文化研究科地域文化専攻、言語文化専攻		
(他の大学と共同申請する場合の大学名、研究科専攻名)			
取組実施担当者	(代表者)和田 忠彦		
<p>[教育プログラムの概要]</p> <p>本教育プログラムは、本研究科における研究者養成を目的とする博士前期課程2専攻(言語文化専攻、地域・国際専攻)および博士後期課程地域文化専攻が、各々の特性・人的資源・カリキュラムを活かしながら、高度な言語運用能力を備えた地域研究者、すなわち研究遂行上必要な言語(研究言語)の高い運用能力と地域文化に関する専門的かつ学際的な知見を身につけた国際水準の研究者を養成するためにおこなうプログラムである。本プログラムの概要は、以下の通りである。</p> <p>博士前期課程では</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 地域研究に必須の高度な専門的知識と幅広い知見を身につけるために、史資料分析の基礎と方法を学ぶ「アーカイブズ研究」、世界諸地域の言語文化・歴史に関する「歴史文化論」「政治経済論」「文学・文化研究」「語学研究」、および超域的な問題を扱う「グローバルスタディーズ」等の専攻専門科目群をさらに充実させる。 (2) 各々の研究分野を学際的な視野から探求する能力を身につけるために、「言語文化研究基礎論」「言語文化研究方法論」「地域・国際研究基礎論」「地域・国際研究方法論」等の共通科目の拡充をはかる。 (3) 英語はもとより、研究遂行上必要な言語(研究言語)について、国際学会・ワークショップでのプレゼンテーションや論文執筆に必要となる高度な運用能力を培うために、世界の諸言語の「学術表現演習」科目の一層の充実をはかる。また、博士後期課程の学生とも協力して実施する市民向け語学授業(サマースクール)を通じて、実践面での言語運用能力の向上をはかる。 <p>博士後期課程では</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 教員3名からなる集団的な指導体制を取り、3年にわたる既定のスケジュールに沿って、研究の進展状況を確認しつつ、学位論文作成・学位取得に向けた継続的指導をおこなう。 (2) 現地での史資料収集・実地調査を促すための「地域研究臨地教育」を充実させ、また学生の自立的研究能力を養うために、新たに「地域研究自立研究」を開設する。 (3) 多様な領域の第一線の研究者を招き、直接議論を交わすことにより、学生の学際的かつ専門的知識を深めるために、今年度から新たに開設した「多分野交流研究」の一層の充実をはかる。 (4) 教育・指導を通じて培われた、学生の学際的・専門的知識、専門的探求能力、言語運用能力を総合的に高め、実践的に応用するために、国際ワークショップ、セミナーを企画・実施する。 <ul style="list-style-type: none"> ● 平成19年3月に設立されたアジア・アフリカ研究教育コンソーシアム(フランス国立東洋言語学院、ライデン大学、シンガポール国立大学、ロンドン大学アジア・アフリカ研究院)を通じて、海外の協定大学から優れた研究者を招聘し、少人数のセミナーを実施する。 ● 本学地球社会先端教育研究センター(平成19年度開設)が管理運営する海外のリエゾン・オフィスに学生を派遣してワークショップを企画・開催し、国際的な場でのプレゼンテーション訓練の機会とする。 <p>本プログラムの円滑な実施と管理のために、</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 取組実施担当者の下に置くプログラム・オーガナイザーを一般公募により雇用し、取組実施担当者との緊密な連携のもとに、プログラム全体の管理と円滑な運営に当たらせる。 (2) 博士後期課程に関する上記2)から4)の企画・運営を支援するために、本大学院博士後期課程修了者の中から非常勤研究員を雇用し、キャリアパス形成の一助とする。 (3) 「学術表現演習」(特に英語)を充実させるために、任期付きの助教を雇用する。 (4) 研究者としての教育的機能の訓練、研究遂行能力育成のため、大学院学生をTAまたはRAとして雇用するための枠を拡大し、そのさらなる経済的支援をはかる。 			

東京外国語大学：高度な言語運用能力に基づく地域研究者養成

履修プロセスの概念図（履修指導及び研究指導のプロセスについて全体像と特徴がわかるように図示してください。）



専攻・コース別必修単位一覧

			専攻専門科目	専攻関連科目	専門特殊研究	学術表現演習
言語文化専攻	言語・情報学 研究コース	個別研究系	8	14	4	4
		超域研究系	12	10	4	4
	文学・文化学 研究コース	個別研究系	8	14	4	4
		超域研究系	12	10	4	4
地域・国際専攻	地域研究コース		10	8~10	8	2~4
	国際社会研究コース		10	8~12	8	0~4

<採択理由>

大学院教育の実質化にあたって、地域文化研究科として、特に社会の要請に対応した「高度な言語運用能力」という人材育成目的を明確に示しており、それに向けた大学の支援体制の準備も積極的で、長期的に期待できる着実な計画となっている点が評価できる。ただし、「言語運用能力」の育成が地域研究に関わる研究能力の向上に必ずしも結びつくとは限らないので、地域研究者養成のため、教育課程の更なる工夫が望まれる。

教育プログラムについては、実践面での言語運用能力等の応用のため、国際ワークショップやサマースクールの企画・運営に大学院生を参画させようとしている点や、プログラムの教育効果を高めるためのプログラム・オーガナイザーの配置など、組織的な取組が評価できる。ただし、「地域研究自立研究」の内容など、プログラム全体にやや具体性に欠ける面が見られるため、それらの具体化が望まれる。